

## 第 29 回 高円寺地域における新しい学校づくり懇談会会議録（要旨）

会 議 名	第 29 回高円寺地域における新しい学校づくり懇談会
日 時	平成 30 年 7 月 19 日（木）午前 10 時 00 分～11 時 40 分
場 所	高円寺中学校 多目的室
出 席 者	懇談会委員 28 名（欠席 3 名）
傍 聴 者	2 名
次 第	1 新委員の紹介 2 標準服について 3 通学区域について 4 その他
資 料	資料 1（仮称）高円寺学園 標準服についてのアンケート集計表 資料 2 フルモデルチェンジ 実例校レポート 資料 3（仮称）高円寺学園の新たな通学区域の指定について

会長	<p>おはようございます。お忙しい中、高円寺中学校までおいでいただきまして本当にありがとうございます。</p> <p>第 29 回高円寺地域における新しい学校づくり懇談会を始めさせていただきます。本日、傍聴を希望された方が 2 名いらっしゃいます。よろしく願いいたします。</p> <p>では、配付資料の確認をいたします。 （配付資料確認）</p> <p>では、次第に沿って進めさせていただきます。このたび懇談会委員に変更がございましたので、ご紹介いたします。 （新委員自己紹介）</p> <p>続いて、事務局にも変更があるということで、よろしく願いいたします。 （事務局担当自己紹介）</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>では、次第 2「標準服について」です。標準服については、前回の懇談会で杉三小・杉四小・杉八小・高円寺中、それから高円寺地域の就学前施設の保護者の皆様から集めたアンケートの結果をご報告させていただきました。そのアンケート結果と、前回、皆様からいただいたご意見を踏まえまして、学校と教育委員会で話し合いをいたしました。その結果につきまして、事務局より説明のほう、よろしく願いします。</p>
----	--

<p>教育施設計画係 推進担当係長</p>	<p>資料1と資料2をご覧ください。資料1は前回の懇談会で報告したアンケート結果の内訳になります。</p> <p>Q4の「小学校が私服の場合、中学校はどちらの標準服がよいか」という部分を、網かけで目立つようにしております。</p> <p>アンケート結果と、前回、皆様からいただいた意見を踏まえ、学校と区で話し合いを継続してきた結果、一定の結論を見ましたので、本日、報告をさせていただきます。</p> <p>まず、小学校につきましては、私服のままとし、標準服は導入しない。そして、中学校については、ブレザータイプの標準服に変更するということといたします。</p> <p>理由としましては、アンケートの結果、全体として、若干ではありますが、ブレザーを望む声が多かったということと、その他に諸々の理由でスカートを履きづらい女性もいるということが考えられることから、ブレザーのほうがそういった方への配慮がしやすいだろうということ等を考慮いたしまして、中学校はブレザーにしたいと考えております。</p> <p>今後どのようなデザインにするかですとか、どのようにデザインを決めていくかということにつきましては、標準服検討部会の皆様にご協力いただきまして、決め方等を検討していければと思っております。</p> <p>資料2は、ブレザーというのは一言と言っても色々な種類がございますので、今後の参考としてお配りさせていただきました。</p> <p>また、本日カタログも回しておりますので、回ってきましたら少し見ていただければと思います。そのカタログの会社に決めているということではありませんので、参考として考えていただければと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>いまの事務局からのご説明につきまして、質問等ございましたらお願いできますでしょうか。</p> <p>今後については、標準服検討部会でいろいろ検討していただいて、また皆様方にお諮りするというような段取りになろうかと思っております。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほどスカートが嫌な子もいる、というお話があったのですがけれども、女子はズボンでもスカートでもいいデザインで話を進められるということでしょうか。</p>
<p>会長</p>	<p>これからの検討になるのかと思いますが、そういうところを加味してのブレザーというご提案でございます。</p> <p>この後のデザインや業者を決めるに当たっては、懇談会委員の皆様からのご意見をいただきながらということになろうかと思っております。</p> <p>ご意見はございませんでしょうか。この場で特にご意見等ないようでしたら、部会で検討を進めていく形でよろしいでしょうか。</p> <p>(意見なし)</p> <p>では、検討部会の皆様、今後の検討をよろしくお願いいたします。</p>

	<p>では、次第3「通学区域について」です。</p> <p>本日は、区より教育委員会事務局次長、学務課長、学事係長においでいただいております。</p> <p>それでは、新校の通学区域について学務課より説明をお願いいたしますが、その前に次長からご挨拶いただききたいと思います。</p>
教育委員会事務局次長	<p>皆さん、こんにちは。この4月で教育委員会事務局次長に着任しました田中哲と申します。</p> <p>まず、懇談会委員の皆様、各方面からご参加いただいていると思いますけれども、杉並区の教育行政に日頃からいろいろなお立場でご協力いただきまして、本当にありがとうございます。この場をお借りして御礼申し上げます。</p> <p>また、この高円寺地域の新しい学校づくりですが、平成25年に計画をつくり、平成26年にこの懇談会が設置されたわけですけれども、これまでの間、長きにわたって皆さんご参画いただきまして、本当にありがとうございます。</p> <p>私も平成24年8月の途中まででしたが教育委員会にいました。杉並区の教育ビジョン推進計画というのがありますが、その作成をする担当を終えて、別の場所に行っておりましたけれども、6年半ぶりぐらいに戻ってまいりました。</p> <p>離れている間も高円寺の新しい学校づくりの進捗については、いろいろ議会の質疑等々を通じながら、聞いておりました。いろいろな紆余曲折がありましたけれども、ようやく32年の開校に向けて様々なことが詰まってきたと思います。今日も標準服の話が出ましたけれども、校歌、校章とか、いろいろなことが本当に皆さんのご協力のお陰で着々と進んできたのかなと思っています。本当にありがとうございます。</p> <p>今日はこの後、学務課長から話をさせていただきますけれども、新しい学校ができますので、通学区域をどうするかというお話でございます。今日は教育委員会がこの間、考えてきた方針案というのをご説明させていただきたいと思います。</p> <p>懇談会委員の方々には、いろいろご意見を聞いていきますけれども、今日を皮切りに当然そのほかに地域の方々、町会、自治会の方々、このエリアの就学中の子どもの保護者の方、就学前の子どもの保護者の方なども含めて幅広く意見を聞きながら、教育委員会が示した方針がどのように作ってきたかということも含めてご提案申し上げたいと思います。</p> <p>今日はまず説明をさせていただいて、限られた時間ですけれども、いろいろ忌憚のないご意見をいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、通学区域につきまして、学務課から説明いただけますでしょうか。お願いいたします。</p>
学務課長	<p>4月から学務課長になりました高山と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p>

します。

通学区域の指定について、私から説明をさせていただきます。

資料3に沿って、説明をさせていただければと思っております。

「(仮称)高円寺学園の新たな通学区域の指定について」とあるように、32年4月の開校を予定している高円寺学園の通学区域の素案を作成しましたので、お示しさせていただいております。

今後はこの案をもとに、保護者、学校関係者、地域の皆様のご意見をお聞きしながら、指定に向けた取組を進めていきたいと考えているところでございます。

1番目に書いてございます通学区域の指定の時期ということですが、平成31年度になります。平成32年4月の開校の前年度に決定をしていきたいと思っております。また、平成28年度に開始した通学区域の特例措置についても、その終期をどうするかということを含めて、平成31年度に決定する必要があると考えているところであります。

では、この通学区域を指定するに当たっての基本的な考え方ということで、3つほど考え方の視点をお示しさせていただきます。

まず1点目、これまで区が推進してきた小中一貫教育をさらに推進していくという観点を第一に考えたということです。もちろん保護者や学校関係者の意見等も踏まえて考えていくということになりますけれども、小学校と中学校の通学区域の整合を図ることが第一の視点であります。

次に2点目、具体的な通学区域は平成28年度以降の児童・生徒の就学実態を考慮する必要があるということです。資料の下の部分に小学校、中学校の修学実態を示した表があります。地域ごとに子どもがどこの学校に進学しているかを示させていただいております。そういったものを考慮した形で考えていくということが第二の視目になります。

3点目が、新たな通学区域の指定後なんですが、高円寺学園だけではなく、隣接する小中学校の児童・生徒数や学級数の推移を見ながら、普通教室等の施設状況、学校の状況等を考えて、学校の適正な規模を確保していく必要があるということが第三の視点になります。

3の基礎データでは、A1、A2、B地域、C地域とエリアを分けて、通学区域が現状がどうなっているかというところを表しております。

A1、A2、B地域、C地域の児童・生徒がどこの学校に通っているかを、住基の人口とあわせてお示ししているのが下の表になっています。

以上の点を踏まえて、今回、教育委員会でお示ししたい案が裏面の「新たな通学区域【素案】」というところになります。

理由を2つ書かせていただいておりますけれども、高円寺学園の新たな通学区域は、A1、A2、Bの現在の杉並第四小学校と杉並第八小学校の通学区域を合わせた区域を指定をしていきたいと考えてございます。

現在の各地域の指定校の状況ですが、表のとおりとなります。

杉並第八小学校の南側のエリアになりますB地域を見ていただきたいのですが、現在、こちらは、中学校は高南中ですけれども、今度新しく指定する通学区域では高円寺学園になります。

次に、杉並第三小学校の北側のエリア、中央線に接しているC地域ですけれども、現在、こちらは、小学校が杉並第三小学校です。今度新しく指定する通学区域になっても杉並第三小学校で変わりません。しかし、中学校については、現在が高円寺中に行っておりますけれども、今度は高南中に行っていただく形に、指定校が変更されることとなります。

なぜこういう形の通学区域にしたかという理由を2つ書かせていただいております。

まず、小学校、中学校の通学区域の整合性を図っていくということです。現在の杉並第四小学校、それから杉並第八小学校の通学区域をそのまま高円寺学園の通学区域にするというところが、その理由の1つになります。

次に、先ほど申し上げたとおり区は小中一貫教育を推進しており、その連携校のグループがあります。高円寺中、杉並第四小、杉並第八小と、高南中、杉並第三小、杉並第十小が、それぞれ小中一貫校の連携校グループということになっています。これまで各グループが行ってきた取組を尊重し、その取組をこのまま引き続き生かすということが、この指定をした大きな理由になります。

理由としては、大きく以上の2つとなります。その下に、簡単ではありますが、指定した新たな通学区域での学校規模を表で示しております。

A1、A2、Bを合わせた区域の31年度から35年度までの児童生徒数、学級数を住基人口を基に算定をした値がこちらになります。

31年度は、児童数が462人で、17学級。35年度には、児童数が608名で、20学級になると予測しております。これは今、このエリアの0歳、1歳というところの住基人口がかなり増えていきているため、このような予測をしているところです。

次に、中学校は、31年度の生徒数が146名で、6学級。35年度は生徒数が168名で、学級数が6のままという予測となります。

小学校に比べると、人数がそれほど増えていないように見えますが、それは、かなりの人数が国公立とか私立とかに進学するためです。実際に区立中学校に進学するのは6割ぐらいになります。住基人口が増えているのに小学校ほど生徒数が伸びないのは、そのような状況が要因になります。

また、高円寺学園だけでなく、隣接校はどうなるかということですが、参考に高南中の規模を載せております。31年度は生徒数171人で6学級。35年度には191人、7学級というところで、高円寺学園の生徒数に比べ、多少、高南中の規模が大きくなることを推測しています。バランス的にどちらかがすごく多くなるようなことがない、適正な規模が図られていることがご確認いただければと思います。

また、杉並第三小についても、参考に次の表でお示ししております。

	<p>31年度は、児童数が191人で、7学級。35年度は児童数が263名、11学級となる予測です。杉三小は現在、単学級ですが、住基人口の増加に伴い、このくらいの学校規模になるということが、見ていただけるかと思います。</p> <p>3の基礎データの表に戻っていただきまして、小学校のB地域をご覧ください。今度、中学校が高南中から高円寺学園と変わるエリアになりますが、30年度を見ていただくと、住基人口が32人のところ、杉四小に4人、第八小に15人進学しています。28年度、29年度を見ていただくと、杉四小には0人と、全く行っておりませんでした。</p> <p>これは、平成25年の計画の中で杉四小、第八小を基本として、高円寺学園を作っていくことを謳い、これまで小中一貫の取組を進めてきたことが地域の中でも、特に就学前の保護者の方から意識され、このような就学実態に繋がったということが読み取れると思っています。</p> <p>以上を踏まえまして、現在、杉四小・第八小の通学区域である、A1、A2、B地域を新たな高円寺学園の通学区域として、今後皆様のご意見をいただき、指定に向けた取組を進めていきたいと考えているところです。</p>
教育施設計画係 推進担当係長	<p>補足ですが、通学区域につきましては、この懇談会の場で決定をするということではありません。決定はあくまで区でいたします。懇談会の皆様がこの案でいいと言ったからこれにするとか、あるいは反対するから変えるということではありません。皆様は、さまざまな団体等を代表してご出席いただいておりますけれども、あくまでも今回はこの懇談会という場を借りて、この高円寺学園の開校に向けてご協力いただいている方のご意見としてお伺いいたします。</p> <p>懇談会としてこの案でいいか悪いかという1つの結論を出すつもりはございませんので、そこをご留意の上、自由にご発言いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>懇談会の皆さんからのご意見を伺いたいということでございますので、ご質問ございましたら、よろしくお願いいたします。</p>
委員	<p>質問させていただきます。</p> <p>まず、特例措置について確認をさせていただきたいのですが、杉八小の学区内の子どもが、特例措置によってどこの学校に行けるのかということです。表を見るとB地域とC地域もなのですけれども、杉六小、杉十小などの指定校以外のところに進学しています。要するに、隣接校に行けるという特例措置だったのかどうか。そこを確認させてください。</p> <p>あわせて、その特例措置の指定校以外に行く場合は、指定校変更という手続が必要なのかどうか教えてください。</p> <p>また、裏面の杉三小の児童数ですが、特別支援学級についてのカウントをしているのかどうか教えてください。</p>
学務課長	<p>まず、現在の特例措置ですけれども、このB地域とC地域、両方にあります。B地域については、指定校が杉八小、中学校は高南中となっておりますが、</p>

	<p>特例措置として、新入学児童について杉三小と杉十小への入学に配慮するという特例措置になっております。中学校では、杉八小の在校生の場合、高円寺中への入学に配慮をするという特例措置になっております。</p> <p>C地域については、指定校が杉三小、中学校が高円寺中となっておりますが、特例措置として、新入学児童について杉四小と杉八小への入学に配慮することになっております。中学校では、高南中への入学に配慮するというのが特例措置の内容になります。</p> <p>指定変更の理由としては、8号事由まで今あるのですけれども、8号事由でこういった特例措置をしております。指定校変更という枠組みの中の1つとして、特例措置をこの高円寺エリアでは認めているというところがございます。</p> <p>また、この表には特別支援学級の児童数は入ってございません。</p>
委員	<p>今の回答をもってなのですが、中学校の表の28、29、30年度を見ると、特にB地域、C地域において現高円寺中学校への通学を希望されていたが、例えば1人しかお子さんいらっしゃらない方などは、今建築中ということもあって、高円寺中学校への通学を避けたというようなケースもあったかと推察されます。そこら辺についても想定して、裏面の31年度以降の想定数というのは作られているのでしょうか。</p>
学務課長	<p>まず、高円寺中は、今まさに建設工事をやっていますので、そういった影響があるかということですが、この表に書いてある中学校のC地域の動向を見ると、30年度は高南中に15名行かれています。これまでも高南中に行かれています方多いですけれども、やはり今の建てかえ中というようなことを意識されて、高南中に行く傾向はあるのではないかと認識しています。ただ、それは推測というか、直接確認したところではありません。</p> <p>また、裏面にある高円寺学園の想定で出した数値ですけれども、今申し上げた要素は加味しておりません。住基人口の変化であったりとか、国公立や私立に進学する子どもの割合だとか、例えば大型マンションが建ったりだとか、要するに既定のそういった要素を考慮して算出したものが今回お示しした内容になっております。改築中だからとか、新校になったから、などの影響を考慮して出した数値ではありません。</p>
会長	<p>ありがとうございます。ほかにご質問あれば。</p>
委員	<p>例えば、中学校の表の29年度のB地域なのですけれども、高円寺中には7名行っていて、「左記以外」のところに「高南中8、阿佐ヶ谷中4」とありますが、杉八小の卒業生は、高南中にそんなに多く行っていないような気がします。つまり、B地域には住んでいるけれども、杉八小以外の小学校にいて、そこから高南中などに行っているということですか。</p>
学務課長	<p>B地域についても、例えば北側であったりとか、南東であったり、南西であったりとか、B地域の中でも住んでいる場所によって、学校までの距離が変わりますので、その影響とかもあると思います。</p>

	<p>例えば、このB地域の中でも西側のエリアは杉六小や馬橋小などが近いので、杉六小などに行かれている方もいると思います。また、南東のエリアだと杉十小に行かれている方もいるなど、そんなに大きくないエリアにしても、場所によって、学校からの距離だとか、地域との関係性などで、就学校に影響があるのかなと思っているところです。</p>
委員	<p>多分30年度で言うと、杉八小から高南中に行った生徒は2名しかいないはずですが、この表に6名となっているということは、4名は杉三小などに通学されていたのかなと思います。このB地域の学区の中で、杉八小ではなかった4名の子というのは、もう既に高円寺学園を選ばないで、違う小学校を選んだということなのです。例えば新しくこの通学区域で設定したとしても、距離のある学校を選ばないような子たちは今後も出てくるのだろうなという気がします。</p> <p>今は特例措置があって、余計そういう風潮になっているのかもしれないのですけれども。</p>
学務課長	<p>その地域の特性というところもある場合があります。通常の指定校変更の理由でも、小学校上がった段階での距離だとかはあつたりしますから、今回の特例措置だけが影響しているということではないかと思います。</p>
会長	<p>ほかにもご質問がございましたら、伺います。</p>
委員	<p>参考に、D地域から杉四小、杉八小、高円寺中に指定校変更等で通学されている児童・生徒というのは、この28、29、30年度でどのくらいいらっしゃるのでしょうか。</p>
学務課長	<p>D地域については、今、データを持ち合わせておりません。</p>
織茂委員	<p>D地域の話なのですが、私も今、手元にデータがないので、あくまでもイメージなのですが、D地域で杉三小に来ていない子は、ほぼ杉十小に行っています。特例措置の兄弟関係だとか、特色ある教育活動の選択肢で、杉十小に行っている子がほとんどだと思います。つまり、D地域に住んでいて杉四小や杉八小に行っている子は、ほとんどいないのではないのかなと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございます。杉三小に行っていないD地域の子については、大体杉十小に行っているのではないかというお話しでした。データ等ありましたら、後日お示しいただければと思います。他にはいかがでございましょうか。</p>
委員	<p>裏面の高円寺学園の31年度から35年度の児童数の推移を拝見すると、すごい伸びなのですが、住基人口、いわゆる0歳、1歳から算出されたとお伺いしたのですが、本当にこんなに伸びるのでしょうか。</p> <p>昔、例えば杉四小は生徒数が減るということで、教室数を減らして、子供園へ入れたりしたのですが、最終的には子どもが予想外に増えてしまって、教室が足りなくなってしまうというようなこともありました。</p> <p>住基人口、いわゆる0歳、1歳の数を単純に持ってきてしまうと、すごくブレが大きくなるのではないかなと思います。</p>



	<p>昨今、保育園問題で、杉並区は非常に環境がいいので、他から流入をしてきている状況が多分あるのかと思うのですが、その人たちはもしかしたらその時期を乗り越えたら、また流出してしまうかもしれない。その点も当然考えなければいけないと思いますので、その辺の根拠をもう少しご説明いただきたいと思います。</p>
学務課長	<p>エリアごとの住基人口のデータに基づいて、この数字は出しているところではあります。</p> <p>例えばA1の地域、30年度の6歳の子どもの住基人口が44名なのですが、それが0歳だと64名になっています。1.5倍まではいかないですが、増えている傾向があります。ちなみに2歳児は72名というような住基人口になっています。どこの地域も増えていますけれども、特にA1地域とA2地域を合わせると、現在の6歳児は56名なのですが、それが0歳児だけで110名います。つまり、区が保育園、子供園、それから子ども子育てプラザだとかの整備したことで就学前の子どもをもつ親の動向が変わってきたのだと思います。区が小学校入ってからも、そういった体制もきちんとしていくということを考えると、今ある数値の人数が小学校にも入っていくということを前提に考えていくほうが、考え方としては妥当なのではないかと思っております。</p>
委員	<p>高円寺の特性としては、やはり家賃が高いというところがあります。高円寺が好きな方もたくさんいらっしゃるんで、若い方がどんどん入ってきて、子どもの人口が増えているというのは感じてはいるのですが、ファミリー世帯として定着していくのは厳しい地域ではあると思います。そうすると未就学児の人数がそのまま小学校に移行していくかというのは、ちょっと考えにくいのではないかなと思います。</p>
学務課長	<p>一般的に考えて、例えば賃貸でこちらに住んで、保育園とかに通わせて、実際に小学校に上がる段階になって、一戸建てを建てるとか、マンションを買うとなったときに、杉並から離れて郊外に行くようなことは当然想定されます。ただ、それがどのくらいの割合だとかというのは、まだ見えないところであります。そういった要素は当然あるということをこれから考慮していく必要があると思っております。</p>
委員	<p>そもそも通学区域を決めるときには何を基準にして決められているのですか。</p> <p>新たな通学区域を定めた理由として「小・中学校の通学区域が整合する」「連携校グループの取組を尊重することができる」というのがあります。私は、通うお子さんの安全ですとか、あと通いやすさ、その他もろもろ、そういう子どもをまずメインに考えて、通学区域というのは指定されているのだろうなと思っていましたのですが。</p> <p>私の息子もA1区域で、子どもを通わせるのに環七を越えるのが怖くて、馬橋小に行かせたいなと昔は思っていたのですが、区が指定している通学</p>

	<p>区域であるから、それなりにいろいろ配慮されているであろうと思って、杉四小、高円寺中にお世話になりました。今のこの案を見ると、もし私がB地域の南のエリアだったら、高円寺学園まで通わせるのはどうかなと思います。</p> <p>「小・中学校の通学区域が整合する」ということですがけれども、これからお子さんを小学校、中学校に通わせようと思っている方は、「新しい学校はうちから近いのかな」、「ほかの学校に比べて、通いやすさとか、安全はどうなのかな」とかを考えると思うのです。</p> <p>この高円寺学園の計画に参加したときに、杉四小と杉八小が単純に一緒になるという話だけではなくて、高円寺地域全体として新しい学校をつくるというような趣旨でお話をいただいたと思います。その話が頭の中にあっただけから、今回の新たな通学区域の素案をつくった理由が「小・中学校の通学区域が整合する」で、現在の杉四小、杉八小を単純にくっつけた案が出されたのは、ちょっと不思議というか、疑問に感じたところです。</p> <p>通学区域とはそもそもどういった形で制定されているのかということをお伺いしたいです。</p>
学務課長	<p>まず、区の規則で、学校ごとの通学区域を指定すると決められています。今後、区の規則の改正などの手続を踏んで決めていく形になります。</p> <p>通学する学校を指定されたとは言え、今おっしゃられた例えば安全性だとか、さまざまな理由で指定校に通わせたくない、というようなことがあったときは、先ほど言った指定校変更という制度があります。</p> <p>指定校変更の理由には、いろいろな事由がありますけれども、例えば距離の事由で言うと、住所地から指定校までの道のりが住所地から最も近い隣接校の道のりのおおむね2倍ぐらいの距離がある場合です。小学校に入学する新入生であれば、指定校以外の学校を選べるということがあります。</p> <p>裏返せば、通学距離を考慮する事由があるということは、通学距離が長くなれば危険性が増しますので、安全性とかも考慮されているのだと思います。</p> <p>また、指定校変更だけではなくて、区の通学路の安全を守る方策としては交通安全指導とか、いろいろおこなっています。つまり、区として指定校を定めています、柔軟な指定校変更という制度もありますし、さらに通学路の安全性を守るためには、さまざまな人なり、物なりを使って、守っていくという対応をしています。</p> <p>なので、通学区域が決まったとしても、特例措置という形で他校に入学することを認めていますので、そういったところの取り扱いとかも含めて、小学校に入学するお子さんの負担が減るように考慮していきたいと思っています。</p> <p>次に、通学区域を指定した理由の考え方としましては、この間、小中一貫の取組をしてきたという観点から考えております。杉四小、第八小、高円寺中で、授業の交流があったりしますし、そのような交流を通じて、身近な関係がつけられていると聞いております。小中学校9年間のつながりある小中一貫教育を推進するという区の考え方とも合致しておりますので、今回の通学区域という</p>

	<p>のも、杉四小・杉八小の通学区域を合わせた形で高円寺学園の通学区域として指定したところになります。</p>
委員	<p>そもそも杉並区がおこなっている小中連携というのは、1つの中学校に2つの小学校がくっついた形で連携していますよね。それに即して、今、高円寺中、杉四小、杉八小で連携している。今後、高円寺学園になったときには、1つの中学校に1つの小学校しかついていない形になります。</p> <p>中学校になったときに、例えば高南中の場合だったら杉三小、杉十小から上がってきた子どもと、また新しい人間関係が形成されて、自立に向けて中学生たちがいろいろ切磋琢磨していくと思うのです。けれども、高円寺学園の場合は、1つの中学校に1つの小学校しかくっついていないという状況のうえ、さらに中学校に行くとも人数が減るため、新しい人間関係が生まれえないのではないか。</p> <p>私は、連携というところでは、例えば、杉三小とも今後は連携していくとかを行った方がいいと思います。杉並区の行っている中学校1つに対して小学校2つという形から外れてしまうことに関してはどう思っているのでしょうか。</p>
学務課長	<p>今、現在は新たな学校が正にできるという段階であり、杉四小と杉八小という2つの小学校で行っている取組を尊重したいというところでもあります。</p> <p>今後、高円寺学園になって、杉四小と杉八小というそれぞれの歴史がある違う学校が、これまでのさまざまな取組を生かした形で一緒になるのですが、今後、他の学校との交流がなくなるのか、といったところの取り扱いとかについては、今後の小中一貫のあり方を含めて、議論をする余地はあると思います。</p> <p>現在の状況で言うと、今ある枠組みの中で取り組んできたことを生かしたまま、新しい学園をつくっていきたいと思っています。</p> <p>新校開校後については、例えば今おっしゃられた小中連携が小中一貫校になった場合、どうなってしまうのかというようなことは、その他の隣接校も含めて、今後の議論していく必要はあると思っております。</p>
教育委員会事務局次長	<p>若干補足をいたしますと、今のご指摘は、連携する小学校が1つになってしまうということですが、もちろん1つにはなりませんけれども、もともとは杉四小、杉八小という2校の小学校です。高円寺学園の小学部になるのは、もともとは杉八小と杉四小の2校の組み合わせで、ずっとこの間、例えば教員同士の交流であるとか、小から中への学びのつながりだとか、阿波踊りをキーにした地域教育であるとかを交えて、いろいろな連続性のある教育をおこなってきました。</p> <p>私が以前かかわった教育ビジョンで大きく謳ってあるのですが、今、杉並区はそういう学びの連続性というのをしっかり重視してやっけていこうとしており、中でも特に9年間の学びの連続性を重視しています。</p> <p>杉並和泉学園の例を出しますと、新泉小と和泉小と和泉中の1年生から9年生までが、今までやってきた取組を校舎一体型小中一貫教育校の中で、我々の考え方をさらに発展させた形でおこなっています。今回の高円寺学園は、小学</p>

	<p>校と中学校の先生方が、元々の連携してきた歴史を踏まえて、連携を継続しながら新校でさらに発展させていくという思いでやっているということを補足させていただきます。</p>
織茂委員	<p>通学区域を開校前に決めずに、例えば開校後1年間、現在の特例措置を継続して、子どもたちの実際の動きをある程度確認した上で、33年度に決めるということはできませんか。どうしても開校前に決めてしまわないといけないことなのでしょうか。</p> <p>というのは、B、C、D地域の小学校を卒業した子どもの動きは、この後、実際に新しい学校が動き始めてから、かなり変動が出てくると思うのです。</p> <p>動きが出る前に無理に線を引いてしまって、結局子どもの動きが予想と違っていた場合に、また線を引き直すようなことになってしまうと、地域が混乱するのではないかと思うので、お聞きします。</p>
学務課長	<p>ご指摘の点ですが、いまお出ししている今後の動向というのは推測ですので、わからない部分があります。形として、通学区域を31年度中に決定をするということになっておりますが、いろいろな選択肢があります。</p> <p>例えば、指定校以外の特例措置を認めないで決定する形、要するに通常の指定校変更のみしか認めないとする形。期限をつけて特例措置を設ける形。また、この地域の特性を考慮し、ずっと特例措置を残した形などです。それは、皆さんの意見をいただきながら考えなければいけないと思っています。</p> <p>区としては31年度中に開校を目指して、ある程度の方向性を出していく必要がありますので、通学区域の指定はさせていただくことになります。</p> <p>けれども、今後、開校後の動向などを踏まえて、特例措置のようなものをどうすればいいのか、皆さんの意見を聞きながら議論をして、手続を進めていくような形がとれればと思っています。そういった検証期間みたいなことを設けることも考えております。杉並和泉学園は、開校して何年間は検証するとしております。そういったやり方もありますので、皆さんの意見を聞きながら考えていきたいと思っています。</p>
会長	<p>ありがとうございます。そういうことも含めてのこの後の検討ということでございます。質問に加えてご意見もありましたら、伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>この通学区域の指定というのは、非常にナーバスな問題だと思っています。今この懇談会の中で他地区、他学校区について意見を申し上げるというのはなかなか難しいかなと感じております。</p> <p>まずは地域あつての通学区域というのを今お伺いしましたので、順序としては、まず地域の意見を吸い上げていただいた上で、それについて懇談会でさらに懇談をしていったほうが、地域の声を反映できるのではないかなと思っています。</p> <p>今の段階でここで意見を発言して、その意見に基づいて地域に説明するというのは、かなり順番的には厳しいのではないかなと感じております。</p>

	<p>私としては、やはりこの通学区域というのは指定するものですから、明確にすべきだという意見は持っております。特例措置に関しても、あくまでも特例ですから、その特例期間が過ぎたら措置をとる、講じる必要はないという意見です。</p> <p>ただ、その中でも、特例措置で指定校変更をして通学しているお子さんがいる家庭に対して、下に兄弟などがいる場合の配慮というものは、絶対必要ではないかなと感じております。ですが、あくまでも指定に関してはきっちりしないと、だらだらと行ってしまおうと思います。</p>
委員	<p>今後もB地域の子どもの何割かは高南中へ行くと思います。特例措置がなくても、別の指定校変更を適用して、新しい学校に行かないという現象は起きると思うのです。ですが、それをルールに外れた間違っただけをしているという考え方にはしたくないと思います。</p> <p>子どもをどこの学校に通わせようとする親の思い、それから安全に対する親の心配、いろいろな理由があって、親は「私の子は杉六小に行かせたい」とか、「杉三小に行かせたい」と言っているのかと思います。土地に住む保護者の声をよく聞くということは大事なことだと思うのです。</p> <p>それによって、新しい個性を持って育ち、別の経歴を持った子が新校の中に入ってくるから、9年間一貫校で育っている子たちに対するいい意味での刺激にもなるということはあると思います。</p> <p>一般的に普通の私立でも、国立でも何でもそうですが、小学校で6年間教育をしています。でも、中学校に行く段階で、改めて試験をやります。試験の結果、小学校6年から付属の中学校へは行けない子が何人かは抜けていきます。試験をやることで空きを設けて、新しい血を呼び込み、その附属中学校は新しい形をつくります。主体は附属小学校からきた生徒ですけれども、新しい血がないとよどむという発想があるのです。</p> <p>ですから、特例措置の指定校変更によって入ってくる子たちは、間違っただけをしているのではなくて、むしろ学校にとってはいい事だという考え方もあり得るのだと思うのです。</p> <p>繰り返しになりますが、現状、ほとんどの私立学校というのは、中高一貫でやっている学校でも、高校受験で一部生徒を補充という形で新しい血を入れているというのが多いと思います。</p> <p>小中一貫校ということの整合性を最優先にするのではなく、現実というか、親の気持ちとか、同窓会の気持ちとか、土地に住む者たちの気持ちも考えていただきたいと思います。いろいろな方のいろいろな立場の意見を聞いていただきたいという、これはお願いのようなところですよ。</p> <p>お願いがもう1つあります。高円寺の地区・地域の教育推進ということで協議会をつくっております。そして、7月21日に「はぴはぴフェスティバル」というイベントを行います。高円寺中の子どもたちの中から実行委員が出て、高円寺中を会場として、地域に声かけて行う予定です。もちろん、杉四小、杉</p>

	<p>八小、そして杉三小の子も、子供園の子も来ます。このように地域教育という形で動くことができるのが、高円寺地域だと思います。</p> <p>このようなイベントをとおして学校同士で仲良くやってきましたし、毎年12月に行う「ゆめ音楽祭」という企画のときでも、4小学校、2中学校の計6校が一緒になってやってきました。それを伝統としてやってきましたので、この伝統が継続していけるように、広い意味で高円寺地域としてみるという視点は大事な視点であろうと思っているのです。</p> <p>今度の「はぴはぴフェスティバル」をやるときに、地域協力を得ています。北にあるあづま通り商店会を初め、いろいろな商店会の協力も得ています。そして、地元町会ということで、高円寺中の通学区域に入っている高円寺南五丁目町会の協力も強く得ているのです。そのようなバックアップがあるから、この「はぴはぴフェスティバル」は実現できているという要素があります。これが地域の絆で協力して出来上がってきた成果になっていますので、通学区域に関しては、この地域の声もお聞きいただきたいなと思っております。今後、いろいろなところを回ってお話を伺うということでしたので、ぜひその辺の視点を取り入れて聞いていただければと思います。</p>
<p>教育委員会事務局次長</p>	<p>今、大変貴重なご意見いただきました。私も冒頭申し上げましたけれども、本日の懇談会を皮切りに方針案を出して、これから地元の地域の方々とか、就学前の保護者の方々とか、時間をかけて意見は聞いていくつもりです。今いただいたご意見を十分踏まえて聞いていきたいと思っております。ありがとうございます。</p>
<p>委員</p>	<p>この通学区域の問題というのは、以前の懇談会ですごく時間をかけて皆さんと議論をしたと思うのです。</p> <p>最初、教育委員会から出された案というのが、今日お示しいただいた案で、それに対して、それでは子どもたちのことを考えていないのではないかとということで、先ほどから出ていますけれども、B地域の一番遠い地区の子たちはどうするのという話を随分、時間をかけて議論をしたはずなのです。</p> <p>もう一度その辺の過去にあった議論というのを紐解いていただきたいと思っております。そのうえで、ここにいらっしゃる方はその地域を代表して来られている方ですから、それ以外の意見も聞いてみていただきたいと思っております。先ほどご指摘ありましたけれども、あくまでこの懇談会の席というのは何かを決める席ではありませんが、我々も意見を述べるからには、少しでもいいものになってほしいと思っております。ぜひその辺を考慮して、いろいろと聞き取りをお願いしたいと思います。</p>
<p>織茂委員</p>	<p>杉三小の通学区域はC、D地域なのですね。小学校の新入生についてはA、B、E地域との間で出入りがあります。中学についてはC地域が高円寺中で、D地域が高南中になっています。比較的この通学区域の話については、当事者として関わりやすいと思っております。あと、子どもや保護者の実態もある程度知っているということで、情報提供をさせていただきます。</p>

	<p>1つ、杉三小の子どもたちは、D地域よりもC地域に住んでいる子どものほうが多いです。ただ、今は高円寺中に行っている子は、ほとんど5人以下の状態。2人とか3人とかで、残りは全て高南中に行っています。保護者が高円寺中の卒業生で、高円寺中に愛着があっても、子どもを高南中に通わせるという様子が見られます。というのは、やはり高円寺中に行って3年間工事中で終わってしまうのだったら、友達も多い高南中に通わせたいという気持ちなのだと思います。だから、高円寺学園ができて上がってしまうと、C地域に住んでいる杉三小の子どもたちは、卒業後の進学先として高円寺中を選ぶ子が増えることが十分に予想されます。</p> <p>あと、杉三小は今、通学区域がC地域とD地域で高円寺中、高南中と分断されている形になっているのですけれども、決してマイナスだとは子どもたちも、私たちも思っていません。1つ、多様性を抱えさせてもらっている学校だなどと思っています。例えば、高円寺中の「はぴはぴフェスティバル」、高南中の「高南祭」、両方うちの学校に中学生が来て、こういうのをやりますからぜひ来てくださいというような声かけをしてくれています。あと、「杉っ子まつり」といううちの学校でやる地域のお祭りにも、高円寺中も高南中もゲストで参加してくれています。あと、運動会の手伝いボランティアには、高円寺中の生徒が来てくれているという具合で、卒業する先は2つに分かれてしまっているのですけれども、そういう形で両方の中学との交流を持てて、子どもたちも、高円寺中もお兄さん、お姉さんだし、高南中もお兄さん、お姉さんだという気持ちを持ちながら生活しています。</p> <p>小中一貫校を推進する上で、きっちり学区を分けてしまったほうがいいのかというような考え方もあるのでしょうけれども、少なくとも杉三小にとってみると、その両方が入り混じっていることによるメリットのほうが大きいのかなと思います。これをすっきりどっちかに分けられてしまうことが、ある意味つまらなくなってしまうのではないのかなと思っています。</p> <p>あと、B地域なのですけれども、小学校の表で、B地域から杉四小に行っている数が問題なのではなくて、B地域からそれ以外の学校に行っている数のほうが問題なのかなと思っています。B地域からほかの学校に入学しているのは、年々増えているのですね。10人、11人、13人という具合に増えていることを考えると、先ほど杉六小のB地域の通学区域のお話がありましたけれども、B地域の見直しを考えていかないと、実態には合わなくなっていくのではないのかなと思っています。</p> <p>先程の話に戻りますけれども、C地域まで高南中にしてしまうと、多分C地域の保護者、地域からいろいろな意見が噴出するのではないのかなと思っています。</p>
委員	<p>通学区域の問題はいろいろな議論を重ねていかなければ、簡単には決められる問題ではないと思うのですね。</p> <p>今、小中一貫教育というものを杉並区が推進しているので、今、杉八小・杉</p>

	<p>四小・高円寺中の小学校が2校、中学校が1校という形で、小中一貫の連携をやっているのだと思います。学びの連続性というものを大事にしながら、新しい学校づくりをするというところでは、この高円寺学園については、新しい学校ができる前の段階からもう準備が始まって、そちらに向かって走っていているとは思っています。</p> <p>昔、教育委員会の方に小中一貫の連携の教育というのは、その地区の中学校、小学校だけの連携ではなく、同じ杉並区の公立中学校、小学校に通っているという意味では、どこの学校に進学しても、その学びというものは同じように受けられると私はお聞きしています。</p> <p>なので、基本的にはその連携校を大事にしながら、通学区域という形も大事にしていくということだと思っていました。新しい学校の通学区域を考えるという目で考えたら、今きちんと決めることも大事なのですが、今後、子どもたちの動向ですとか、流れも全部を加味した新しい通学区域を考えていかなければいけないと思います。このB地域は杉八小の通学区域なので、このように高円寺学園の通学区域に指定をされたとしても、もしかしたら遠いという理由で選ばない子たちが出てくる可能性はあるのかなと思うのです。</p> <p>そうすると、ふたを開けたときに、実際に通う子たちがすごく限られてしまうのではないかと。もう少し広い目で見て、高円寺地区全体を新しい学校の通学区域と考えていたほうが流れとしてはよかったと、何年か先に後悔することもあるのではないかなと思うのです。</p> <p>新しい学校ができるのですから、高円寺地区の全体を見た通学区域の考え方をしていければいいと思うので、その点もいろいろ考えていく中に残していただけたらと思います。</p>
委員	<p>資料では、通学区域を指定する理由として、2点挙がってきていますが、そもそも、学校の通学区域を決めるのはこういうことが理由ではないと思います。ちゃんと安全面であるとかを考慮に入れているのかというところを確認をお願いします。この素案を基にいろいろな方たちにお話を持っていった場合に、通学区域はこの2点の理由だけで決まってしまうので、そのあたりはちゃんと見直しをしていただきたいなと思います。</p> <p>それと、31年度に決定して、開校と同時に通学区域を決めるというのは、私はすごく危ないなと思っております。やはり特にBとC地域の人たちの動きは住基人口だけでは計れないと思います。新しい学園では、小学校から中学校にあがったときに、逆三角形みたいなイメージで中学生の人数が多くなって、いろいろな人間形成が出来てくれば良いと思います。</p> <p>せっかく新しい学園ができて、通学区域を区切ってしまったことで「人数そんなに増えないね」ということが起こるような気がします。やはりそのあたりはいろいろな方たちの意見を聞くのと、あと、通学区域は隣接した学校にもすごく影響があると思いますので、そのあたりをちゃんと調整して、子どもたちが適正な人数で教育を受けられるような学校にしてもらいたいです。</p>



	<p>通学区域は慌てて決めるのではなくて、開校後、推移を見てから決めるという形がよろしいかなと思っております。</p>
委員	<p>資料の表の30年度のところで高南中に6名行っているうち、杉八小から行っている子は2名なので、あと4名のお子さんは、多分高円寺学園ではなく、高南中に行きたくて杉三中とか杉十中に進まれたのだと思います。そういうことをしてまで、他の小学校に行ったのに、高南中には行けない、指定校変更すれば行けるとは思いますがけれども、結局そういうことになってしまうと思います。その辺も踏まえて、いろいろご意見を集めたほうがいいと思います。だから31年度に通学区域を決めてしまうのではなくて、いろいろな動向を見て、その上で徐々に決めていくほうが望ましいのではないかと思います。</p> <p>私としては、小学校の通学区域は杉四小、杉八小の通学区域だという認識はあったのですが、中学校の通学区域は変えないと勝手に私、思っていました。だから、私としては、中学校と小学校の通学区域を合わせなくてもいいのかなど、感じるころはあります。</p>
委員	<p>資料で青く囲まれた地域を通学区域として決定するか、推移を見て段階的に決定するかということになっていくと思うのですが、もし、いまの高円寺中の通学区域である赤い枠が高円寺学園の通学区域と決まった場合、B地域の小学生の指定校はどこになるのでしょうか。例えば、杉三小になるのでしょうか。</p>
学務課長	<p>その場合は、杉三小になると思われれます。</p>
委員	<p>例えば赤い枠が高円寺学園の通学区域になったときに、B地域はすべて杉三小の学区になるのか、分断をされて杉六小と杉三小になるのかなど、そのあたりも見据えながら考えていただけたらと思います。</p>
会長	<p>というご意見をいただきました。ほかにはいかがでしょうか。お願いします。</p>
委員	<p>杉八小はいつもこのB地域のところで頭を悩ませるものなのですが、先ほどもご意見ありましたが、何年も前からこの件についてはご意見を申し上げてきて、何年か経って最終的にこの形が出てきたということは、線の引き方としては変えようがないのかなという印象です。どこで線を引いても、B地域の西寄り、東寄りとか、いろいろな理由でバラつきが出てしまうと思います。なので、通学区域はこのままにして、特例の指定校変更などで柔軟に対応するという区から明確に地域に周知していただきたいと思います。そうすれば、「何でここで線を引いたの」とか、「何でこんな遠くまで行かなければいけないの」という意見は、少しは抑えられるというか、納得をしていただけるのかなと思うのです。</p> <p>杉八小の卒業生は、高円寺中と高南中に年度によっては多少の変動があっても、大体半分ずつ進学してきました。先生方からは、どちらの中学校に行っても小学校で連携をして学んできたことは生かされますと説明を受けています</p>

	<p>し、実際にいろいろな学校から集まって中学校は運営されています。1年生で入ったときは、杉三小、杉十小、杉八小の色みみたいな、個性があったとしても、いつの間にか高南中や、高円寺中の生徒として形が作られていくので、そういったことに関しては特に心配することはないのかなと思うのです。</p> <p>ただ、9年間の連続の学びという特色ある学園ということで、この地域では初めてのことなので、そこも期待されて、進学先として選ぶご家庭も多いかと思えます。通学区域としてははっきり区切られるけども、柔軟に対応しますということを伝えていただき、それぞれのケースで対応していただきたいと思えます。</p> <p>ただ、もちろん区が指定校以外に行くことを許可したとしても、子どもの通学時の安全性とかに関しては、そのご家庭での自己責任というか、そういった選択して行ったのだから、という考えは出てきてしまうと思うのですが、最大限、配慮していただければと思います。</p>
委員	<p>C地域は、本当に目の前に新しい高円寺学園がありながら、小学校1年生でも杉三小に通うことになります。いろいろ通学区域の定義があるとはいえ、C地域にいる保護者の方たちが「こんな近いところに何で行けないの」となると思えます。杉三小は、本当にいい学校なので、みんなに来てほしいのですけれども、そのあたりを新しく小学校に入る子どもをもつ親たちにちゃんとお話ししていただきたいと思えます。</p> <p>あと、どうしても想像されるのは、Cの地域の子どもたちが半分ぐらいは高円寺学園に行ってしまうのではないかなということ。資料を見ると、杉三小の人数がすごく増えていて、嬉しいのですけれども、一時、新しい学校ができることで、杉三小がなくなるのではないかという、地域の方たちや校長先生の不安な声がありました。杉三小をこのまま残すのであれば、地域の学校として残すようにちゃんと考えていただきたいです。</p> <p>あと、C地域の子たちは特例措置という形で、高円寺学園の中学校に行ってもいいのですよね。それならば、高円寺学園になってからも、杉三小とか、杉十小とかの近隣の学校とも小中連携をやっていただいて、杉三小の子たちが高円寺学園の中学校を選んだときに入りやすいような形をとっていただければと思います。本当に目の前が新しい学校なので、やはりここの地域の保護者たちは、とても気にしています。いろいろ考えていただきたいと思っております。</p>
委員	<p>この新しい学校づくりに関しては、当初から何人も委員が変わっていますけれども、平成21年度から高円寺の新しい学校についてということで、小学校4校、中学校2校、計6校を交えての懇談からスタートしたと記憶しております。</p> <p>その中で、高円寺地域の小中学生は、国公立・私立行かれています方も含めて約2,000人。その2,000人をどうするかということ当時の適正配置という計画に基づいて考えていったわけです。最終的にこの高円寺学園として統合する学校については、杉四小、杉八小、高円寺中になったという流れであると私は</p>

	<p>認識をしております。</p> <p>そういった中で、当然その時点でも通学区域というのは頭の中に入れてやってきたと思うのです。私は、当初の計画というものも再度、皆様に周知したうえで、この通学区域に関してはお話をさせていただきたいと思います。要するに、2,000人ということは2つのエリアに分ければ、片方は1,000人なのです。そのバランスというのは、重視していかなければいけないと思いますので、ぜひご配慮いただきたいと思います。</p> <p>それともう1つ、今回の通学区域の線引きに関して、E1地域の方々というのも、高南中エリアということで、今後影響が出てくると感じておりますので、その地域の方にも配慮させていただきたいと意見させていただきます。</p>
会長	<p>というご意見でございました。ありがとうございました。</p> <p>ほかにはいかがでございましょうか。</p> <p>(意見なし)</p> <p>それでは、冒頭に事務局からございましたが、各団体の代表として、皆さまからの意見を聞きたいということでございましたので、ご意見いただきまして本当にありがとうございました。この後につきましては、事務局、それから学務課で相談していただいて、次の進め方についてはお示しいただけるということによろしいでしょうか。</p>
学務課長	<p>たくさんのご意見をいただきましてありがとうございました。今後につきましても、地域の中に入ってご意見を伺いたいと思いますし、当然、在校生の保護者、それから就学前の保護者の方に対しても、足を運ばせていただいてご意見を伺いたいと思います。本日いただいたような貴重なご意見を、またたくさんいただくようなことがあるかと思えます。説明の中では、今日のこの懇談会の中でもこういった意見をいただいていますという報告もしていきます。そういった意見を踏まえて、今回出した素案をどういう形にしていくかということを整理していきたいと思えます。</p> <p>区としては来年度、最終的に指定していくという形になりますが、こういう方向でいきたいということ、またご報告させていただくような形をとりたいと思っております。</p>
会長	<p>ありがとうございます。それでは、今のような形で意見をいただき、配慮をしながら進めてくださるということでございますので、後はお任せしたいなど思っております。よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、次第4で「その他」でございますが、事務局からいかがでございましょうか。</p>
教育施設計画係 推進担当係長	<p>(高円寺中学校のブロック塀の改修について説明)</p>
会長	<p>ありがとうございます。事務局からは以上でよろしいでしょうか。</p> <p>次に、委員の方から何かございますでしょうか。</p>

委員	<p>今、通学区域の指定についての資料の中で、児童数、生徒数の推移を拝見しているのですが、新しい学校の児童生徒が大きく増えていくということが予想されています。新しい学校が開校した時点で、すでに校庭の狭さというのに懸念を感じております。さらに児童数、生徒数増えていくことによって、満足な学習が新校の校庭でできるのかというのは、多少不安があります。</p> <p>その点について、杉並第四小学校跡地の校庭や体育館の二次的な利用は、中学校の部活動を行っていく上では、必要不可欠であると思っています。</p> <p>直接、この懇談会では跡地利用に関しては関わりないかもしれませんが、新しい学校の先を見据えた上で、そういった利用ができるようにぜひ教育委員会としては、区長部局に進言をしていただきたいと、これは強く申し上げたいと思います。</p> <p>また、1年間開校が延び、杉四小の校庭の利用に関しても半年延びる形になると思います。前回も申し上げたと思うのですが、高円寺中の部活動などで杉四小を活用しておりますので、部活動が円滑にできるよう校庭照明等に関しても、ご検討いただければと思います。</p>
学校整備課長	<p>区の中で、杉四小の跡地については今、活用についての検討部会を立ち上げて検討しているところです。今おっしゃられたものも踏まえて、学校としての引き続きの杉四小の活用、さらには部活動、あとは学校の開放利用団体もいらっしゃると思いますので、その辺も含めた総合的な活用について現在検討しております。いただいたご意見も踏まえた上での検討ということになるかと思っていますので、よろしく願いいたします。</p>
委員	<p>いま、他の施設等を建てる案とかも再編計画の中で出ておりますけれども、校庭に一度建物を建ててしまうと、戻すということは難しいと思いますので、そういったスペースの確保というのは、ぜひ教育委員会の方で粘っていただきますようお願いしたいと思います。</p>
教育委員会事務局次長	<p>今、お話しがありました検討部会、私が座長になっておりますので、十分そういったご意見を踏まえてやっていきたいと思っています。</p> <p>区立施設の再編整備計画について、区は今年、実行計画も含めてこれからローリングをかけて、パブコメをやっていきます。そして、区立施設の再編整備計画は、書きかえられ二次プランというものを作っていきます。そのために我々は今、検討部会をやっていきますので、教育委員会の立場から区長部局と調整していき、教育環境の豊かさを保つような形で取り組んでいきたいと思っています。</p>
会長	<p>ありがとうございました。ほかに委員さんからありますでしょうか。</p>
委員	<p>意見です。標準服がブレザーに決まったということですが、中学校だけのアンケート結果では60%以上が今の詰め襟セーラーがいいという意見でありました。それでも学校側と教育委員会でブレザーに変えると決められたのだと思いますが、この辺の地区はすごく私立校が多く、東京立正中学校や実践学園中</p>

	<p>学校や杉並学院中学校とか、私立のブレザーの制服を着て通る子がたくさんおられます。ブレザーにすると決めたのだったら、高円寺中と一目で分かるような標準服を考えて「ああ、高円寺中の子だな」と、私立校の子と間違えないようにしていただきたいと思います。</p> <p>前回の懇談会でも言いましたけれども、高南中は襟がなく、分かりやすい標準服なので、高円寺学園とわかるような制服をこれから皆さんで考えていただければありがたいなと思っております。</p>
<p>会長</p>	<p>わかりました。検討部会ではしっかり検討していきたいと思います。</p> <p>ほかに委員さん方から何かあればご発言いただければと思います。</p> <p>(意見なし)</p> <p>ありがとうございます。では、次回日程ですが、10月下旬頃に予定しております。日程調整につきましては、事務局から後日、直接連絡させていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>最後になりましたが、お世話になった大竹部長がお見えいただいておりますので、ご挨拶いただけますでしょうか。</p> <p>(大竹部長挨拶)</p> <p>大竹部長、長い間ありがとうございました。</p> <p>では、以上をもちまして本日の懇談会を終了いたします。ありがとうございました。</p>